

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016 年度(後期)指定公募

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」

完了報告書

「医療と介護の架け橋セミナー」

申請者：関野 久邦

所属機関：医療法人社団久福会 関野病院

提出年月日：2018 年 5 月 15 日

〈開催趣旨〉

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、5人に1人が75歳以上となります。

今後高齢化が進み、医療や介護需要がますます増加しますが、現在の医療・介護のサービス・連携体制ではまだ十分に対応できないと言われてしています。

そのため国では「地域医療構想」を策定し、将来に向けてその地域にふさわしい医療機能の文化と連携を推進すべく様々な取り組みをしており、当セミナーではそうした国の動き、地域に根差した医療と介護連携を最重要課題と捉えています。

関野病院は病院主体の組織から居宅介護事業所、在宅訪問診療をグループに置くことにより、医療・介護を通じた地域包括ケアシステムの一員として地域の患者様を支えるべく活動を行ってきました。

上記活動の一環として、「医療と介護の架け橋セミナー」を始めた次第であります。

〈医療と介護の架け橋セミナー 開催内容〉

【開催目的】

豊島区及び近隣の市町村(板橋区、練馬区、新宿区等)への医療・介護の多職種連携の構築及び専門知識の習得。

【開催日時】

●2017年6月8日 「在宅薬剤管理について」

講師：株式会社雄飛堂 北川晋様(薬剤師)

●2017年10月16日 「豊島区の医療介護連携の現状」

講師：豊島区医師会 武山ゆかり様(社会福祉士)

●2018年1月18日 「在宅療養患者の口の異常と訪問歯科診療、依頼のPOINT」

講師：野城歯科西池袋クリニック 野城康成先生(歯科医師)

●2018年3月29日 「救命医から見た在宅患者の救急搬送 ～119、かけますか?～」

講師：日本大学医学部附属板橋病院 桑名司先生(救命救急医)

【広報手段】

- ・チラシ配布
- ・近隣地域の病院・施設への案内チラシ郵送
- ・当院ホームページでの広告掲載

【アンケート集計内容】

○2017年6月8日開催 「在宅薬剤管理について」

講師：株式会社雄飛堂 北川晋様(薬剤師)

- ・参加人数 45名(ケアマネ13名、相談員11名、看護師9名、薬剤師5名、その他7名)
- ・回答者 39名

1. これから介護と医療が連携していくために、必要なこと(複数回答含む)

- | | |
|------------------|-----|
| ①情報交換や交流の場 | 77% |
| ②率直な意見ディスカッションの場 | 41% |
| ③定期的な勉強会の開催 | 46% |
| ④その他 | 0% |

《これから介護と医療が連携していくにあたってネックになっている点(問題点)》

- ・多職種とのネットワーク不足
- ・医療職と介護職の間のスピード感にずれがあるため、ケースや対応・指示の伝え方と受け方について共有したほうが良いと感じる。
- ・薬局と訪問看護を結ぶための認知度が低い。
- ・まだ、全てのサービス事業者が参加できないケースが多い。または、必要性を感じていない方がいる。

2. セミナーの満足度

- | | |
|-----------|-----|
| ①満足した | 59% |
| ②おおむね満足した | 33% |
| ③普通 | 8% |
| ④やや不満 | 0% |
| ⑤不満 | 0% |

3. セミナーの感想

- ・「薬剤」を扱ったテーマは初めてだったので、気づきのきっかけ作りになった。
- ・普段何気なく耳にしている薬に対しての副作用や、在宅での飲み忘れの相談をいただく機会が多く、とても参考になった。
- ・薬局(薬剤師)も連携を取りたいと考えていることが分かった。
- ・在宅療養に関して、積極的に薬剤師さんに相談をしてもいいのだとわかり、安心した。ただ、薬局間の格差が大きく、非協力的なところも多いのは残念である。
- ・改めて訪問管理指導の薬剤師の役割を理解できた。
- ・薬剤師との関わりを密にする事で、利用者様の援助を効率的にできるようにし、今回のセミナーでの内容を実践していきたい。

○2017年10月16日 「豊島区の医療介護連携の現状」

講師：豊島区医師会 武山ゆかり様(医療ソーシャルワーカー)

- ・参加人数 36名(ケアマネ8名、相談員12名、事務・施設長10名、その他6名)
- ・回答者 23名

1. これから介護と医療が連携していくために、必要なこと(複数回答含む)

- | | |
|------------------|-----|
| ①情報交換や交流の場 | 70% |
| ②率直な意見ディスカッションの場 | 26% |
| ③定期的な勉強会の開催 | 35% |
| ④その他 | 13% |

※(情報交換のためのICTの利用、新たな後方支援病床を作ること)

≪これから介護と医療が連携していくにあたってネックになっている点(問題点)≫

- ・関わる担当者が皆同じ対応ができていないのか、情報の交換及び共有する必要がある。
- ・交流の場が限定的で地域差が大きい。
- ・地域住民の掘り起こし。どんな方がどのような状況で生活しているのか、民生意見と地域包括の連携。
- ・包括支援センターの義務がなさすぎて、地域ケアに至っていない。
- ・交流の場は増えてきているが、活動の振り返りの場があまりないこと。
- ・医療・介護連携とはいえ、垣根がなかなかなくなる。介護職がやはり軽視されていると感じる

2. セミナーの満足度

- | | |
|-----------|-----|
| ①満足した | 26% |
| ②おおむね満足した | 61% |
| ③普通 | 13% |
| ④やや不満 | 0% |
| ⑤不満 | 0% |

3. セミナーの感想

- ・豊島区の現状、課題がわかりやすいセミナーだった。
- ・在宅医療の仕組みがよくわかった。
- ・都や区の状況の把握ができて勉強になった。
- ・連携や地域資源を生かした仕組みづくりが必要であることがわかった。
- ・講師の説明がとても明瞭でわかりやすかった。

○2018年1月18日 「在宅療養患者の口の異常と訪問歯科診療、依頼のPOINT」

講師：野城歯科西池袋クリニック 野城康成先生(歯科医師)

- ・参加人数 50名(ケアマネ2名、相談員9名、介護福祉士3名、看護師2名、検査技師7名、放射線技師2名、理学療法士2名、薬剤師2名、事務・施設長9名、その他12名)
- ・回答者 15名

1. これから介護と医療が連携していくために、必要なこと(複数回答含む)

- | | |
|------------------|-----|
| ①情報交換や交流の場 | 73% |
| ②率直な意見ディスカッションの場 | 27% |
| ③定期的な勉強会の開催 | 40% |
| ④その他 | 7% |

※(担当者会議への医師の参加)

«これから介護と医療が連携していくにあたってネックになっている点(問題点)»

- ・退院支援時にケアマネからの視点、病院NS・PT等の視点で今のニーズの違い、ADL等の見立てと違うことがあり、サービス等の調整に困ることがある。
- ・入れ歯が合わないと言っている高齢者が相当数いる。また、口腔のことはあきらめていると言っている高齢者も相当いる。

2. セミナーの満足度

- | | |
|-----------|-----|
| ①満足した | 47% |
| ②おおむね満足した | 53% |
| ③普通 | 0% |
| ④やや不満 | 0% |
| ⑤不満 | 0% |

3. セミナーの感想

- ・口腔・歯の仕組みが複雑で難しい。やはり大事なんだなと感じた。利用者さんのケア、よく考えて対応したいと思った。
- ・口腔外科の観点から症状を疑うことの重要性を学ぶことができた。
- ・口腔ケアの大切さ、ケアをしないための病気等の怖さが良くわかった。
- ・嚥むことがADLにつながっていくことを感じました。
- ・口腔内状況の重要性が良く分かった。歯科受診の困難さは家族も介護関係者も日頃感じているので、「方法」があれば教えてほしい。
- ・高齢者自身が自覚できない身体の状況について様々なことを教えていただきたい。

○2018年3月29日 「救命医から見た在宅患者の救急搬送～119、かけますか?～」

講師：日本大学医学部附属板橋病院 桑名司先生(救命医)

・参加人数 66名(ケアマネ9名、相談員13名、医師4名、看護師19名、検査技師3名、事務・施設長6名、その他12名)

・回答者 44名

1. これから介護と医療が連携していくために、必要なこと(複数回答含む)

- | | |
|------------------|-----|
| ①情報交換や交流の場 | 61% |
| ②率直な意見ディスカッションの場 | 43% |
| ③定期的な勉強会の開催 | 50% |
| ④その他 | 0% |

《これから介護と医療が連携していくにあたってネックになっている点(問題点)》

- ・病院(医療系)は未だに連携の必要性を感じていないと感ずることがある。
- ・看取りの同意書にサインしていただけないケースがある。
- ・医療経験者と、医療未経験者との間に、言葉の捉え方の違いと、違いに気が付かないこと。立場上の壁がある。
- ・施設入居者の超高齢化、その家族の高齢化、入居者の認知症で本人の意思の確認が取れない。家族が決められない。延命・蘇生の内容を説明しても理解できない。結局救命搬送になるのか決められず板挟みになること。
- ・医療に関することであれば、同職種の専門家(医者・看護師・理学療法士)のアドバイスの違い、(病院や担当者の違いによるもの)利用者がどうすればいいのかわからなくなってしまう場合、ケアマネとしてどうすればいいのか困るときがある。

2. セミナーの満足度

- | | |
|-----------|-----|
| ①満足した | 55% |
| ②おおむね満足した | 25% |
| ③普通 | 14% |
| ④やや不満 | 0% |
| ⑤不満 | 0% |

3. セミナーの感想

- ・今回は救命の内容であり、自分だったら?家族だったら?と深く考えさせられた。
- ・救急医療の現場がよくわかった他、在宅側で準備しなければならないこと、まだまだ進めていかなければ、いけない課題を改めて認識できた。
- ・日常業務で利用者との意識確認をしておく必要があったと感じました。できていない方に関しても日頃意思確認をしておく必要があると感じた。

【全体を通して】

参加者のアンケートよりネックに思っている点という問いでは医療側と介護側での溝や、扱いの差を感じるという、医療側と介護側の連携不足を不安に思う声が多いように感じた。

しかしセミナーや交流会を通して、他職種から見た考え方や知識の部分などを知ることができ、連携を深めることに繋がったと感じたという意見も多かった。

反省点としては、セミナーの開催を直接案内する機会が足りなかったことが考えられる。開催の日程が決まり次第ケアマネージャーへセミナーのチラシ配布の協力依頼をしていたが、郵送で前もってチラシを送っている施設と被ることも多く、当院の医療と介護の架け橋セミナーを知らない施設に周知し、参加していただくという点では少々周知が足りないように感じた。

また、開催するにあたり、病院の診療終了時間の見極めが難しく、準備の時間を十分に取れずに慌ただしくなってしまったことも反省点としてあげられる。

今後医療と介護の架け橋セミナーを開催する際に、これらの反省点をふまえ、互いに連携を深めるきっかけとなる場にしていきたいと感じた。

医療法人社団久福会 関野病院
病院長 関野 久邦